

奥出雲町から二人が出場

二月二日から二月六日にかけて富山県で行われた第五十回全国中学校スキー大会に先がけて、一月二十四日、奥出雲町役場横田庁舎にて出場激励会が開かれました。出場するのは糸原裕佳さん（横田中三年）、石原秀真さん（横田中一年）の二人。石原さんは「この大会を目標にがんばってきたので、悔いのない滑りをしたい」と決意を述べました。また、三年連続の代表に選ばれている糸原さんは「中学校最後の大会なので、今までの練習のすべてを出したい。支えてくれた周りの人たちに感謝したい」とあいさつしました。



▶ 糸原さん(左)と石原さん(右)

「鬼は外、福は内！」



子どもたちが元気に豆まき

二月三日の節分に合わせ、町内の幼稚園・保育所・幼児園で豆まき行事が行われました。横田幼児園では、園児たちが「食べ物の好き嫌い」「友達にいじわるする」などの「こころのオニ」を紙に書いて段ボールで作った鬼に貼りつけ豆まきをしました。すると本物の鬼たちが現れ、園児たちは大パニック！怖がりながらも全員で豆まきをし、鬼を退治しました。三成保育所では、先生が節分の意味やヒイラギなどの飾り物の説明を子どもたちに行っていると、鬼たちが「いうことを聞かない悪い子」を探しに保育所に入ってきて「こころでも大パニック！子どもたちは泣きながらも、鬼に向かって豆まきをしました。その後、いい子で過ごすことを鬼と約束すると、鬼たちは悪い子を探しに別の場所へ行ってしまいました。



▲「こころのオニ」をみんなで退治



▲たくさんのオニにびっくり

「しゅんすけ新聞」新聞コンクールで佳作

日本民営鉄道協会主催「『私とみんな』小学生新聞コンクール」で、阿井小学校五年生の勝部俊輔君が佳作を受賞しました。

このコンクールは、新聞作りを通じて子どもたちに鉄道に対する関心と理解を深めてもらおうと実施されており、今回が六回目です。勝部君の「しゅんすけ新聞」は、全国六千五百五十五点の作品の中から佳作十九点のうちに選ばれました。「将来は一畑電車の運転士になりたい」という勝部君は、幼いころから電車に興味があり、この新聞コンクールで賞に輝くのも今回で三回目。前回・前々回の受賞作も一畑電鉄



をテーマにしています。電車の好きなところについて勝部君は、「音・色・形、知るほどいろんなところが好きになります。その中でも一畑電鉄のんびりしたローカルの雰囲気が好き。おすすめの駅はステンドグラスが美しい出雲大社駅」と語ってくれました。

体育館を所狭しと駆け回る

スーパードホッケー

第十七回小学生スーパードホッケー交流大会が、二月二日、町内の全小学校十一校、百七十九人が出場し町民体育館で行われました。スーパードホッケーは、屋内で行うため気軽にできるということで学校の体育教材にも用いられるなど、幅広い世代に人気のあるスポーツで、この大会はホッケー競技の普及と冬季間の体力づくり、児童間の交流を目的として開催されています。各試合とも攻守が目まぐるしく入れ替わる展開で、残り時間わずかでの勝ち越し点を挙げたチームの応援席からは、大歓声が沸き起こっていました。結果は次のとおりです。

【男子】

優勝 チーム・ゼロ（馬木小）
準優勝 八川サムライブルー（八川小）

【女子】

優勝 馬木杖球倶楽部（馬木小）
準優勝 TORIKAMI光7（鳥上小）



▲ライン際の攻防!!

ものづくりの素晴らしさは

冬の奥出雲会議 開催

横田高校魅力化・活性化協議会の主催するイベント「冬の奥出雲会議」が、奥出雲町出身の安部良夫さんらを招いて二月八日に横田高校にて開催されました。当日は生徒約五十人、町民・関係者約三十人が集まり、ものづくりの第一線で活躍する講師の話聞き入りしました。



▲生徒に意見を聞く安部さん

『伝えておきたい日本のDNA』というテーマで講義をされた安部さんは、地元横田中学校を卒業後、日本電装・技術者養成所（現デンソー工業学園）に入所、社員教育などの育成業務に携わり、現在はデンソー工業学園の学園長をなさっています。世界に展開している自社の話題を通して、「ものづくりは手わざ技能。それができる『人』を育てることが重要であり、日本にしかできない。将来の目標を明確にするためにも、いろいろな情報を自分で得る努力をしてほしい。目標があることは学習に対するパワーになるはず」と後輩たちへエールを送りました。また、高校生の活動事例として、島根県社会福祉協議会主催「県民発のわが島根づくりアイデアコンペ」大賞を受賞した藤原寿至さん（三年生）の地域活性化案も発表されました。

身近にある伝統産業

自分で「調へ学習」

鳥上小学校三・四年生十五人が、社会科と総合学習の一環として町内にある伝統産業「そろばん」について自分たちで調べようと、一月三十一日、雲州そろばん伝統産業会館を訪れました。児童たちが同館の石原淳子学芸員にあらかじめ準備していた質問をすると、石原学芸員からはそろばんの歴史、奥出雲町でそろばん作りが盛んになった理由などいろいろな話を付け加えながら答え、子どもたちはノートに一生懸命書きこんでいました。

また、展示してある道具やめずらしいそろばんを観察して、担任の先生や石原学芸員へ再度質問をしていました。



▲各国のそろばんにも興味津々

バーガーハウス ピコピコ 子育て支援の表彰

平成24年度こころ大賞をバーガーハウス ピコピコ（横田地区 荒金勇吉さん）が受賞されました。「こころ」とは島根県が行う子育て支援事業の名称で、この賞は子育て支援に積極的に取り組まれているグループや協賛店を表彰するものです。

ピコピコさんの「毎日食べても安心・安全な素材で美味しいハンバーガー」をコンセプトとした地産地消の商品づくりと、こころカード提示でポイント二倍の特典が受けられるなどの取り組みが認められ、今回の受賞となりました。おめでとうございます。



▲県庁での表彰式（左端が荒金さん）